

原型ハ寧ろ葉ノ細カク裂レル方ノモノデ、裂片ノ幅ノ廣イ方ハ、其變種デア
 var. *pimpinellifolium* (CAV.) SMITH デアル様ニ思ハレタ。而シテ、前述セル草
 木圖説ノ圖ハ、アノ程度ノ圖デ比較判斷スル事ハ困難デハアルガ、之ニ近イト
 云ヒ得ル様ニ思ハレタ。文献ヲ見ルト、例ヘバ R. KNUTH, Geraniaceae (1912)
 in Pflanzenreich ナドニハ *E. cicutarium* ニハ、相當多クノ形ガアリ 其等ガ變
 種トシテ扱ツテアル。從ツテ、種トシテノおらんだふうるハ多様デアツテ、其
 内ノ二型ガ伊丹市ニ混生シテ居ル事が、宇井氏ニ依リ發見サレタワケデア
 ル。勿論之等ハ、近代ノ侵入者デ、往時ノモノ、子孫デハアルマイガ、從來ノ古イ
 標本ト慾齋ノ圖トカラ見テ、昔ニモ今日同様ニ二型ガ來テ居タモノト考ヘラレ
 ル。尙各萼片ハ、橢圓形デ尖端尖リ、更ニ多細胞性ノ白色毛ガ1本出テ居ルコ
 トガ、特徴ニ數ヘラレテハ居ルガ、乾クト折レ易イ。背面脈上ニハ、可ナリ長イ
 多細胞性(通常3節ヨリ成ル)腺毛ガアリ、先端ハ黃色、球狀ヲ呈シ、分果ニ殘
 存スル嘴狀ノ花柱ハ、中部デ螺旋狀ニ屈旋シ、花柱ノ外側面ニハ微毛密生シ、内
 側面ニハ微毛ハ無ク、上向性ノ髯ガアル。分果ノ外側面ニハ刺毛ヲ見ル。本屬
 ハ云フ迄モナク、日本ニハ産シナイガ、野生化シタモノガ見出サレル様ニナツ
 タトスレバ、日本ニ産スル雜草トシテ一應取扱ハナケレバナルマイ。

雜 錄 Miscellaneous

○ふぢノ種子ノ中毒 (松田孫治)

ヨク當地方デハ子供等ガ早春未ダ雪ノアル中ニ、ふぢノ莢ヲ取ツテ來テ打割テ種子ヲ取
 リ、炒テ食スルノデアルガ、多量ニ食スルト眩暈ヤ嘔吐ヲ催スニ至ルカラ注意ヲ要スル。

○えんれいさうノ果實ノ中毒 (松田孫治)

えんれいさうヤしろばなえんれいさうノ果實ガ熟スルト漿質トナリ、一種ノアルコール
 様芳香ト淡イ甘酸味ヲ有シテ一寸味が良イ。秋田縣ノ或所デハ方言ニあまきけト稱シテ盛
 ニ食スル。或子供ノ報ズル所ニ依レバ、未熟ノモノヲ多量ニ食シタ所ガ、腹痛ト嘔吐ヲ催シ
 タトノコトデアル。

○どくうつぎノ果實ノ味ト中毒 (松田孫治)

どくうつぎノ黒紫色ニ熟セル實ノ味が甘イコトヲ牧野博士ハ嘗テ本誌上ニ述ベラレタ
 ガ、私ハ未熟ノ紅色ヲ呈セルモノヲ味ツテ見タ所ガ、稍酸味ヲ有スルノミデアツタ。斯クノ
 如キ味ナレバ子供等ガ誤ツテ食スルトキ多量ヲ食スルニ至ルト思ハレル。